



414
 A 123
 9

第二百廿五号

四葉半

大正十一年四月
 限侯爵邸寄贈

一千八百七十四年八月十八日横濱刊行ヘラ
 ルド新聞抄譯



臺灣戦争

新聞特別ノ通信ニ曰ク西日ノ航海ヲ經テ
 當港ニ安着セリ然ルニ吾儕ノ着港ヲ待ツ筈ノ
 炮船ハ水師提督某ヲ迎ヘテ吾儕ト共ニ臺灣ニ
 渡海スル為メ當港ニ在ラザリト雖モ今兩三
 日ヲ經ハ復タ當港ニ來着スベシ然リ而シテ余
 敢テ廈門ノ市街ニ敬服スト言フヲ能ハス然レ



不日ニシテ當港ヲ去ルヲ以テ更ニ之レニ聞
係セヌ而シテ我徒寄寓ノ家ハ至大ノ茶舗ニシ
テ稍一時ノ居ヲ安ニスルニ足レリ
余確實信頼スル件處ヨリ聞ク一ヲ得ルニ其出
兵ノ費用ニ償金ヲ收ムルニ非サレハ日本人敢
テ臺地ヨリ其兵ヲ撤セサルヘシ之レニ反シテ
支那人ハ此償金ノ討要ヲ笑フテ更ニ心頭ニ批
ケス終ニ七月二十一日ヨリ一百日ノ内ニ必ス
臺地ヨリ其兵ヲ撤スル歟否ヲサレハ兵端ヲ啓
クニ至ル一ヲ日本人ニ告ケタリ然レモ日本人

ハ瑯^{リョウ}嶠^{キョウ}ヨリ東岸迄一直線ニ道路ヲ開キ以テ新
道ノ北方迄此方^{西方}ヲ占據セリ支那日本ノ事
既ニ斯ノ如クナルヲ以テ戰爭殆ント避ク可カ
ラス而シテ支那人斯ノ如キ不虞ニ準備スル所
ノ事至ラサル無ク或ハ云フ臺灣府ヨリ厦門迄
電信ヲ通セニカ為メ八十萬弗ノ費用ヲ出クニ
テ其間ノ海ヲニ電信管ヲ布カニ一ヲ西洋人ニ
約定セリト然レモ此八十萬弗ノ金額果シテ確
實ナルヤ否ヤ余未ク之レヲ言フ一ヲ得ヌ而シ
テ支那人其兵ヲ臺灣ニ徵集シ大兵ヲ以テ臺灣

ノ各府ヲ堅守スルノ勢ニシテ唯リ臺灣府ヲミ
ヲ以テ之レヲ言フニ既ニ大約一萬ノ守兵アリ
又「リ、ユン、チヤン」^{李鴻}章カノ練兵七八千既ニ其途ニ
在テ將ニ臺灣ニ來ラシヤシ廣東ノ兵五六千及
ヒ「チヤン、チヨロフ」ノ兵大約同數亦既ニ其途ニ
在テ將ニ臺灣ニ來ラントス而シテ右「チヤン、チ
ヨロフ」ノ兵ハ到着ノ後數日ニシテ「タコロ」ニ赴
クヘシ又大炮ヲ購求シテ厦門ノ炮臺ヲ建築ス
ト日本運送船其号ハ今同港ニ碇泊シテ其機械
ヲ^修循覆ス而シテ同船乗組ノ日本海軍士官等微

細ニ其^修循船處ヲ検査セリ然ルニ戰爭ノ時ニ於
テ同港ノ二國ノ為メ甚タ便利ノ地ニルヲ回ヨ
リ言フ俟スト雖ニ其守禦ヲ固クスルヲ得ル
ノ地ニ非サルヲ亦明クケシ
支那ノ意断然戦ニ決セシ勢ニシテ之レヲ要ス
ルニ其勢亦甚タ強ク日本ノ敢テ抗敵スル所ニ
非ラサルカ^及願フニ日本ノ敢テ支那ニ^及フ能ハ
サル者ハ其財用ニシテ支那ノ財用日本ヨリ富
メルヲ十倍ナルヘク尋常ノ戰爭ニ於テハ財用
ノ貧富頗ル其勝敗ニ關係スル者ニシテ若シ其

國貧困官庫竭乏ナランキハ將々何ヲカ為ス
得ンヤ日本ノ支那ト兵端ヲ啓クハ抑又暴虎
馮河ノ勇^カ蓋シ日本熱心以テ萬國ト並立セン
ト欲スルノ餘發狂マシ者ヲ臺灣出兵ノ如キ是
レ其確證ナリ意フニ日本ノ斯ノ如キ至輕至妄
ノ舉動ヲ為ス所以ノモノハ國家治安ノ事業一
日ノ能ク成ス所ニ非サルトヲ忘レシナラン蓋
シ日本妄リニ他邦ノ事ニ干與セシテ專ラ自
國ヲ務ニ勵精セハ其利害得失懸隔如何ソヤ請
フ日本他人ノ土地ヲ拓クノ大志ヲ發ス前光ッ

當ニ其民ヲ治^ル同盟國ノ版圖内ニ住ム蛮民ヲ
開ク大業ヲ企ツル前光ッ其士族叛逆ノ氣象ヲ
鎮壓セントテ
日本支那ノ臺灣全島所有ノ權利ヲ争フカ如シ
ト雖モ臺灣全島ノ支那所有ノ權利ニ於テハ毫
モ疑ヲ容ル、所無カルヘシ請フ其例ヲ奉ケテ
之レヲ説ク即チ澳大利亞^{オーストラリア}新西蘭ノ土人英國
ノ管内ニ非ヤルトテ争々英國ト兵端ヲ啓ク
無ク且ツ唯其土人暴戾ノ所行ヲ名ニシテ佛蘭
西或ハ日耳曼之レト戦フトテ得ンヤ或ハ亞米

利加土人米國ノ管内ニ非ラサルヲ争ヒ米國
ト兵端ヲ啓クノ無ク且ツ唯其暴戾ノ所行ノ名
ニシテ佛蘭西或ハ日耳曼之レト戦フヲ得ニ
ヤ妄亦甚クカラスヤ之レヲ要スルニ日本此
事件ノ所為甚ク倨傲ナルヲ以テ當ニ之レヲ屈
抑スヘシ嗚呼日本應ニ一擲スヘク一擲却テ日
本ノ為メナルヘシ然リ而シテ日本其所為ノ非
ヲ覺リテ其兵ヲ撤セサル實ニ驚愕ニ堪ヘス今
試ニニ支那日本ノ兵力相等シキト為スモ其財
用遠ク支那ニ及ハサルナリ而シテ是レ其関涉

小ナラザルナリ或ハ言フ日本ノ軍艦臺灣ノ東
岸ヲ測量スルニ當テ破船セシト其全ク沈没セ
シ歟或ハ少シク損害セシ歟未タ聞クヲ得サ
ルナリ

林 正明 訳

